

「個性」が輝く、明るい育児を目指して 幸せが巡るあたたかい居場所を作りたい

特定非営利活動法人 ギフト

新潟県新潟市中央区紫竹山 7-18-5 1F

URL : <https://gift-mama.net>

「知ることからはじまる支援」をコンセプトに障がいや発達に遅れのある子どもを育てる保護者に向け、オンラインサロンを手掛けるなど様々な支援活動を行っている『ギフト』。本日はタレントの野村将希氏が高岡理事長のもとを訪問し、事業に対する熱い想いを伺った。



interviewer
野村 将希



理事長

高岡 光恵



——まずは、高岡理事長の歩みから。社会人の第一歩はどのようなお仕事に就かれて？

電機メーカーのショールームでパソコンのインストラクターをしていました。結婚後は育児と両立しながら大学院で事務職としてお世話になり、そちらで二人目の育児休暇を取らせていただいたのですが、そのころに息子の知的障がいが発覚したのです。勤めながらの育児は大変だったので、自宅でできるケアはないかと考え、アロマやマッサージを学び始めました。最初のころは息子の心のケアになれば、という想いで勉強していたのですが、この時の経験が現在の活動にもとても役立っているんです。

——支援活動において、「心のケア」が何より大切なことだと聞きます。現在の事業を始められた経緯とは。

通常の学校より手厚いサポートが受けられる特別支援学校に入学したのですが、そこでの出会いを通じて、同じく障がいのある子を持つ保護者の方々の様々な想いに触れました。幸い私は夫や周囲の支えがあり、つらい日々をなんとか乗り越えてこられた。けれど、障がいを受け入れてもらえない環境で、孤独と戦いながら子育てに苦しむお母さんもいる。そんな現状を知った時、子どもを支援する学校やサービスはあっても、保護者を支えてくれる場所はとても少ないこ

とに気付きました。我が子に楽しく幸せに生きてほしい。その一心で障がいや、それを取り巻く社会と向き合っていく一方で、「できないこと」を突きつけられる現実と常に戦わなくてはならない。そうした環境で、お母さんは自分を責めてしまう瞬間が何度もあるのです。私自身、息子を育てていく中で絶望や無力感、様々な感情を抱え、下を向いてしまうことがたくさんありました。そんな時、もっと「自分」に寄り添ってくれる場所があればいいのに、と思ったのです。自身の経験を経て、保護者が少しでも自分に自信を持ち、楽しんで子育てができるきっかけになるような場所を作ることができればと思い、『ギフト』を立ち上げました。

——今年4月には新たなデイサービスを始められたとか。商業施設の中に支援スペースがあるのは珍しいですね。

「知ってもらおう」——まずはここからだ。買い物ついでにふらっと覗いた先でこういう施設があることを知った。それだけで十分にこの活動をしている意味があると感じます。実際にボランティアの方が声をかけてくれたり、買い物に連れ出してくれたり、子どもたちの世界が広がってきたように思います。楽しそうな姿を見ると、保護者の方も安心しますよね。そうして気持ちに余裕ができると、「できないこと」ではなく「特性」として障がいを受け入れられるようになると

思うのです。保護者の方にも「知ること」で子育てに自信を持ってもらえたら。ふれあいの場を広げ、「色々な子どもがいる」ことが当たり前と感じてもらえる社会になれば嬉しいですね。

——お話は尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。

今後は、高校卒業後も通える施設を作ることが目標です。障がいのある子どもたちの世界が広がり、より心豊かな生活が送れること。保護者の方が明るく前向きに育児と向き合い、自分の人生を楽しむこと。それぞれの幸せが常に循環している。そんな施設をこれからもどんどん増やし、みんなが自分を大切に思える場所を作っていきたいですね。

(2021年8月取材)



「おさんのストレス緩和になればとアロマやマッサージの資格を取得されたという高岡理事長。自分にできることを増やし、自信につなげてもらいたいと話されていました。『ギフト』は多くのお母さん方の希望の光ですね」野村 将希・談